**「朝鮮半島の国際政治」ゼミ**

担当：李東俊（leedongjun@kitakyu-u.ac.jp）

**１．本ゼミについて**

①　古今東西を問わず、隣国との関係は一筋縄にはいかないものだが、韓国との関係も舵取りが難しい。そこには、韓国が単なる隣国ではなく、旧植民地の一部であり、さらに冷戦下で形成された分断国家として日本のあり方に直接影響を及ぼし続けたという事情がある。慰安婦など個人請求権問題、竹島領有権問題などに象徴される歴史・法認識のズレ、相対的な力関係の変化に伴う相互認識の変容、北朝鮮の核・ミサイル問題や「もう一つの隣国」中国への対応をめぐる安全保障認識の齟齬など、日韓関係上の懸案や課題は後を絶たない。当然ながら、それぞれの問題には、歴史的かつ政治的なコンテキスト（文脈）が働く。

②　本ゼミでは、 以上のような日韓関係（史）にまつわる懸案を含む、現代の朝鮮半島をめぐる諸問題を取り上げる。学問分野としては、政治学や国際関係論、経済学など社会科学の方法論を中心とするが、哲学、歴史学、社会学、人類学など、人文科学を含めた関連分野を幅広く取り入れた地域研究を目指す。

③　これまで本ゼミで取り上げられたテーマは多様である。韓国の若者世代と政治の変容、日韓の社会保障制度の比較、韓国の民主化と政治体制の変容、韓国型ファッション文化研究、北朝鮮の社会とジェンダー、日中韓のメディアとナショナリズム、歴史・領土問題と日韓関係の展開、スポーツ・文化におけるグローバル化とナショナリズム、東北アジアの地域協力と開発主義など、いずれも今の韓国・北朝鮮と日本、東北アジアが直面している重要な問題である。2021~22年度ゼミでは、「BTS現象」を様々な視点から捉え直す研究を行っており、2023~24年度ゼミでは「隣国の肖像：日本（人）の韓国・朝鮮認識」を共通テーマにして基礎研究を進めている。

**２．進め方**

・専門演習 Ⅰ・Ⅱ：「朝鮮問題」に関わる資・史料を講読・輪読し、討論を通じて自分なりの「問い」を立てていく。２学期には「可能な限り」韓国での資料収集作業（ゼミ旅行）を実施する。

・卒業研究演習 Ⅰ・Ⅱ：指導の下に、問題関心の設定、卒論の準備・作成作業に取り組む。

**３．応募条件**

・ 以上取り上げたテーマのいずれかについて「熱い」関心と「学ぶ」姿勢を持つこと

・１年生向けの『朝鮮半島研究概論』、２年生向けの『韓国・北朝鮮政治外交 Ⅰ・Ⅱ』を「**全て**」受講した者が望ましい。

**４．希望票の書き方**

本ゼミで取り組んでみたい研究テーマと、かかる問題関心について、①「熱情を込めて」②「論理的に」述べなさい。

**５．見学**は、いつでもご自由に（木３限、B-302教室）。不明の点があったら、遠慮なくメールにて。